

第2章 生涯学習プラン策定の背景

1 国、東京都、本市の動向

(1) 国の動向

国は、令和5年(2023年)6月に「第4期教育振興基本計画」を策定し、今後の社会の変化を見据えた教育政策のコンセプトとして「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイング*の向上」を掲げました。その実現に向けて、「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」などの基本方針を定めました。

同じく令和5年度(2023年度)に、全ての子どもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す「こども基本法」が制定され、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的方針を示す「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。令和元年(2019年)策定の「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」と併せ、誰もが生涯学習に取り組める社会を目指しています。

(2) 東京都の動向

「東京都教育ビジョン(第5次)」は子どもの教育に特化した計画として、国の「第4期教育振興基本計画」の基本的な考え方を参酌して令和6年(2024年)3月に策定されました。この計画では、「自ら未来を切り拓く力の育成」「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」「子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化」を3本柱に掲げ、「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って、自ら伸び、育つ教育」を目指しています。

(3) 本市の動向

本市では、基本構想・基本計画「八王子ビジョン 2022」が令和4年度（2022年度）末に計画期間を終了したことから、社会環境の変化を踏まえ、本市の現状と未来を見据えた新たな基本構想・基本計画として「八王子未来デザイン 2040」を令和5年（2023年）3月に策定しました。

また、本市の歴史文化の魅力を語るストーリー「霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」が、令和2年（2020年）6月に都内唯一の日本遺産*に認定され、「歴史文化を活かしたまちづくり」を基本目標に定めた「八王子市文化財保存活用地域計画」を令和4年（2022年）7月に策定しました。

八王子市教育委員会は、国及び東京都の教育政策、社会を取り巻く環境の変化、本市のまちづくりを踏まえた上で、「八王子未来デザイン 2040」の6つの都市像の1つ「生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち」を実現するため、今後10年間を見据えた八王子の目指す教育の姿を掲げ、令和7年度（2025年度）より当面5年間を計画期間とした「第4次八王子市教育振興基本計画」を令和7年（2025年）2月に策定しました。

2 生涯学習施策の現状と市民の取組状況

(1) 生涯学習プラン（令和2年度～令和6年度）による取組状況

八王子市生涯学習審議会では、生涯学習プラン（令和2年度～令和6年度）の計画期間中に実施された生涯学習に関連する市の事業を対象に、関連事業評価を行っています。

ここでは、生涯学習プラン（令和2年度～令和6年度）に掲げた3つの基本施策ごとに、主な取組と成果をまとめました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の行動が大幅に制限された時期もありましたが、市民の学びを止めないため、オンライン形式の市民講座やイベントを導入するなど、事業の実施方法を工夫しながら生涯学習の推進に取り組みました。

1 誰もが学べる環境づくり～まなぶ～

【施策展開の方向性】

誰もが、いつでも、どこでも生涯にわたり学ぶことができるよう、読書やスポーツ・レクリエーションをはじめ、多様な学習の機会を様々な場所で提供します。市民が持っている知識と経験が活かされるよう、学習の内容を充実させていきます。

主な 取組と成果

【施策の展開 01 子どもの頃から始める生涯の学び】

- 「出張体験講座」では講座の種類や回数を拡充、「青少年講座」では参加者の満足度が高い講座を実施するなど、子どもたちに多様な学習の機会を提供しました。
- 「はちおうじ出前講座」の内容を充実させ、身近な場所での学習活動を支援することにより、市民が気軽に学習に取り組む環境づくりを進めました。
- 「郷土資料館講座・体験学習」は、姉妹都市盟約締結 50 周年記念で「八王子のまちの歴史と千人同心」の講座を実施しました。
- 「ヘルシーウォーキング」は、日本遺産認定ストーリーの構成文化財をコース上に設定して実施し、運動しながら歴史に親しむ機会を提供しました。

【施策の展開 02 人生 100 年時代を見据えた多彩な学習機会の充実】

- 「日本遺産ウォーク」の実施により、日本遺産認定ストーリーをはじめとした地域の歴史文化に親しんでもらったほか、令和 5 年（2023 年）の「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」開催により、日本遺産*の普及啓発を図るとともに、本市の歴史と伝統への関心と理解を深める機会を提供しました。
- 生涯学習、特に社会人の学び直しのための情報発信ツールとして、八王子リカレント教育支援アプリ「はちリカ」を令和 3 年（2021 年）8 月に公開し、八王子学園都市大学（いちよう塾）など市が開催する講座のみならず、大学の公開講座といった多様な講座の情報を提供しました。

【施策の展開 03 共生社会実現に向けた生涯学習の支援】

- 「高齢者施設読書活動支援」では、施設入居者の本のリクエストに応じたほか、読書意欲の向上や生活機能の維持に役立つ本を選定し貸出を行うことで、身近に読書に親しめる環境の整備を行いました。
- 「男女共同参画に係る講座」「国際理解講座」等の講座を実施し、市民の共生社会への理解を促進しました。

2 学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～

【施策展開の方向性】

生涯学習を通じて得た知識や経験が個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人とひととの交流が新たな学びや生きがいをもたらすという学習成果の循環を目指します。この循環の実現のため、ボランティアや指導者の育成、イベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援し、市民団体や NPO 法人などと連携・協働した、新たな生涯学習の仕組みづくりに取り組みます。

主な 取組と成果

【施策の展開 04 学校、家庭、地域で支える子どもの育ち】

- 学校、家庭、地域で子どもの成長を支える取組として、「学童保育所」では申請児童数が年々増加する中で、小学校の空き教室を有効活用し、令和4年度（2022年度）から継続して待機児童ゼロを達成しています。
- 「放課後子ども教室」では週5日実施の学校数を増やしつつ、令和5年度（2023年度）より、新たに「朝の子ども教室」を試行実施するなど、子どもの居場所を拡大する取組を行いました。

【施策の展開 05 地域を豊かにする学びの還元】

- 「生涯学習コーディネーター養成講座」や「はちおうじ志民塾」など、市民が地域社会への参加意識を高めるための取組や、地域活動のきっかけづくりとなる事業を展開しました。
- 各種ボランティア養成講座などの人材育成講座や「はちおうじ出前講座」の実施など、市民力を活かした学習活動の支援を行いました。

【施策の展開 06 学びをいかし、みんながつながる環境の充実】

- 「生涯学習フェスティバル」をはじめとしたイベントの開催により、市民の日頃の学習の成果を発表できる場を提供し、参加した市民の交流の機会となりました。
- 「八王子まつり」や「八王子いちよう祭り」をはじめとする地域行事を通して、市民交流の活性化を図ったほか、「八王子環境フェスティバル」など、市民団体をはじめ、企業やボランティアなどと連携・協働による取組を幅広く展開しました。

【施策の展開 07 高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実】

- 「大学生等が参画する生涯学習センター講座」を東京工科大学と共催で実施し、大学生が子どもたちにプログラミング体験の機会を提供し、参加者満足度の高い結果となりました。
- 「クリエイトライブステージ」では40歳以下の団体・個人への音楽活動やポエトリリーディング（朗読）などの活動の機会を提供しました。

3 学びを支える基盤づくり

【施策展開の方向性】

生涯学習活動を始めたい市民、学習をより深めたい市民などに対し、講座、サークル活動、ボランティア参加などの情報を分かりやすく提供するとともに、相談体制を拡充させます。また、生涯学習施設、市民センター、各種スポーツ施設、学校施設など、市の有する施設を積極的に市民に提供することで、生涯学習環境の充実を図ります。

主な 取組と成果

【施策の展開 08 学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供】

- 講座やイベント、講師やサークルなどの生涯学習に関する情報を市の広報紙やホームページにまとめるとともに、SNSによる発信や地域情報紙、マスコミ等、様々な媒体を用いて分かりやすい情報を広く発信し、市民の学習活動をサポートしました。

【施策の展開 09 生涯学習環境の整備】

- 生涯学習センターや図書館、市民センター、各種スポーツ施設を提供するほか、生涯学習センターにおける「フリースペース」事業では、学生の学習の場として空き学習室を開放することで、施設を有効活用しました。
- 図書館では電子書籍サービスに加え、令和3年(2021年)4月からナクソスミュージックライブラリ、令和4年(2022年)9月から電子申請を用いたオンラインリクエストサービスといったデジタル技術を活用した非来館型サービスを拡充し、いつでもどこでも学べる生涯学習環境の充実を図りました。

(2) 生涯学習関連事業評価の結果

令和5年度（2023年度）の生涯学習関連事業評価において、参加者数又は満足度の目標を達成した事業の割合は80%を超えました。令和5年（2023年）5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行となり、「行動制限」が解除されたことから、各事業の実績についても回復の傾向が見られました。市政世論調査でも「生涯学習をしている市民の割合」が70%近くに上り、令和4年度（2022年度）までと比較して上昇していることから、市民が生涯学習活動を再開していることがうかがえます。

【令和2年度（2020年度）～令和5年度（2023年度）生涯学習関連事業評価】

評 価	説 明	令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)	
		事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率
S	目標以上の成果があった	0件	0%	1件	1%	1件	1%	1件	1%
A	計画・目標どおりに達成できた	9件	7%	74件	58%	78件	61%	105件	83%
B	計画・目標の一部が達成できなかった	44件	34%	28件	22%	36件	28%	17件	13%
C	達成できず困難な課題がある	16件	12%	2件	1%	2件	2%	0件	0%
評価なし	感染拡大防止による中止などにより評価なし	60件	47%	23件	18%	10件	8%	3件	2%
合 計(プラン掲載事業)		129件	100%	128件	100%	127件	100%	126件	100%

※各年度の「比率」は、小数点以下を四捨五入

○令和5年度（2023年度）生涯学習審議会評価（令和5年度（2023年度）生涯学習関連事業評価から抜粋）

- 令和5年度（2023年度）に実施した事業のうち、オンライン形式に特化した事業を除く全ての事業が対面形式での実施となっている。コロナ禍を経て、対面形式での事業実施のニーズが再認識されるとともに、オンライン形式との併用によって実施する事業もあり、より多くの学習機会を提供できている点を評価する。今後も併用形式の事業が増えていくことが望ましい。
- 多忙により学習機会を逃している人も多いことから、時間や場所の制約を受けずに学習できる機会を増やすことが求められており、各講座のアーカイブ*化は今後必須になってくると考えられる。
- 現場に行かなければ体験できない、いわゆる「コト消費」としてのイベントは、周知方法をより一層工夫することが求められる。チラシや広報紙、ホームページや SNS といった既存の周知方法に加え、イベント紹介動画を掲載するといった手法も検討し、周知方法を適切に組み合わせることにより、効果的な PR を推進してほしい。
- 今回の評価では「参加者の声」の欄を設け、参加者数等の量的指標のみならず、事業の満足度などの質的指標も含めた多面的な評価を試みた点はよかった。

(3) 主な生涯学習関連事業の実施状況（令和5年度）

ア 生涯学習センター（3館）の講座開催状況

区分	講座数（回）	延べ受講者数（人）
市民自由講座	165	5,536
ゆうゆうシニア講座	42	1,330
青少年講座	19	284
家庭教育関係講座	24	414
国際理解講座	6	397
日本語講座	3	1,516
計	259	9,477

イ 学園都市大学（いちょう塾）の講座開催状況

区分	講座数（回）	延べ受講者数（人）
一般講座	236	2,983
公開講座	51	2,203
計	287	5,186

ウ 夏休み子どもいちょう塾の講座開催状況

区分	講座数（回）	延べ受講者数（人）
特別講座	30	613

エ はちおうじ出前講座実施状況

区分	講座数（回）	実施件数（件）	延べ受講者数（人）
市役所編	101	158	29,456
官公署・企業等編	33	1,987	118,137
計	134	2,145	147,593

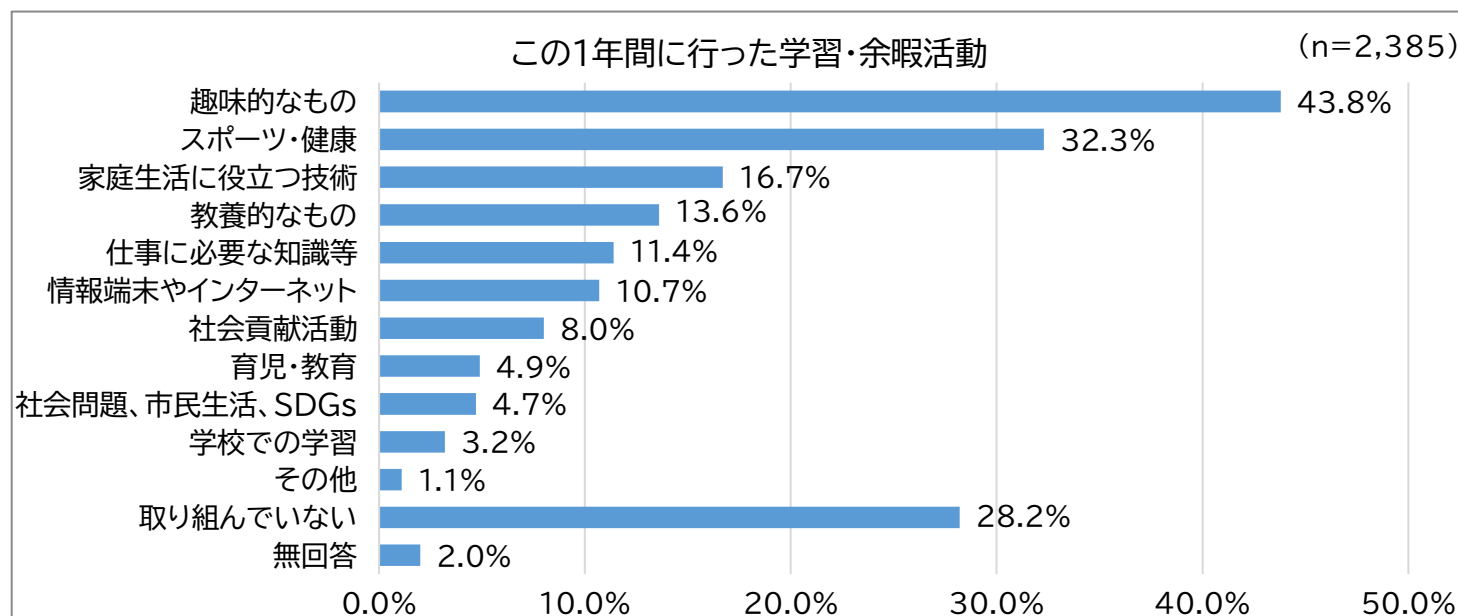
(4) 市民の生涯学習活動の取組状況

本市では、市民の生活意識、市の施策に対する評価及び市政への要望を把握し、本市の市政運営の資料として活用するため、毎年市政世論調査を実施しています。

調査項目には、毎年「八王子未来デザイン 2040」の指標に関するものがあるほか、令和5年度（2023年度）は生涯学習活動に関する調査項目を追加して実施しました。

◎この1年間に取り組んだ生涯学習活動

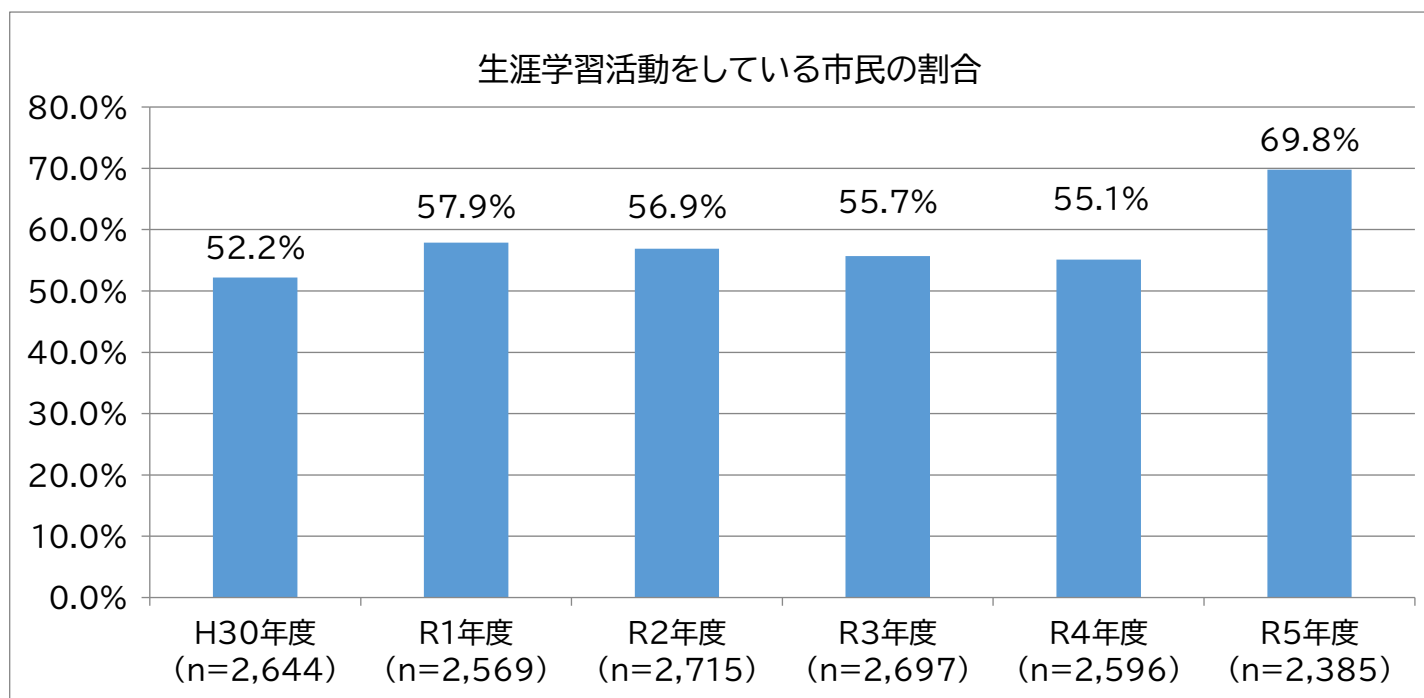
この1年間に取り組んだ生涯学習活動を聞いたところ、「取り組んでいない」（28.2%）を除くと、「趣味的なもの（音楽、美術、写真、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」（43.8%）が最も多くなっています。次いで「スポーツ・健康（ウォーキング、ジョギング、水泳、健康法、医学など）」（32.3%）、以下「家庭生活に役立つ技術（料理、家庭菜園、裁縫、日曜大工）」（16.7%）などの順となっています。



< 令和5年(2023年)市政世論調査より >

◎生涯学習活動をしている市民の割合

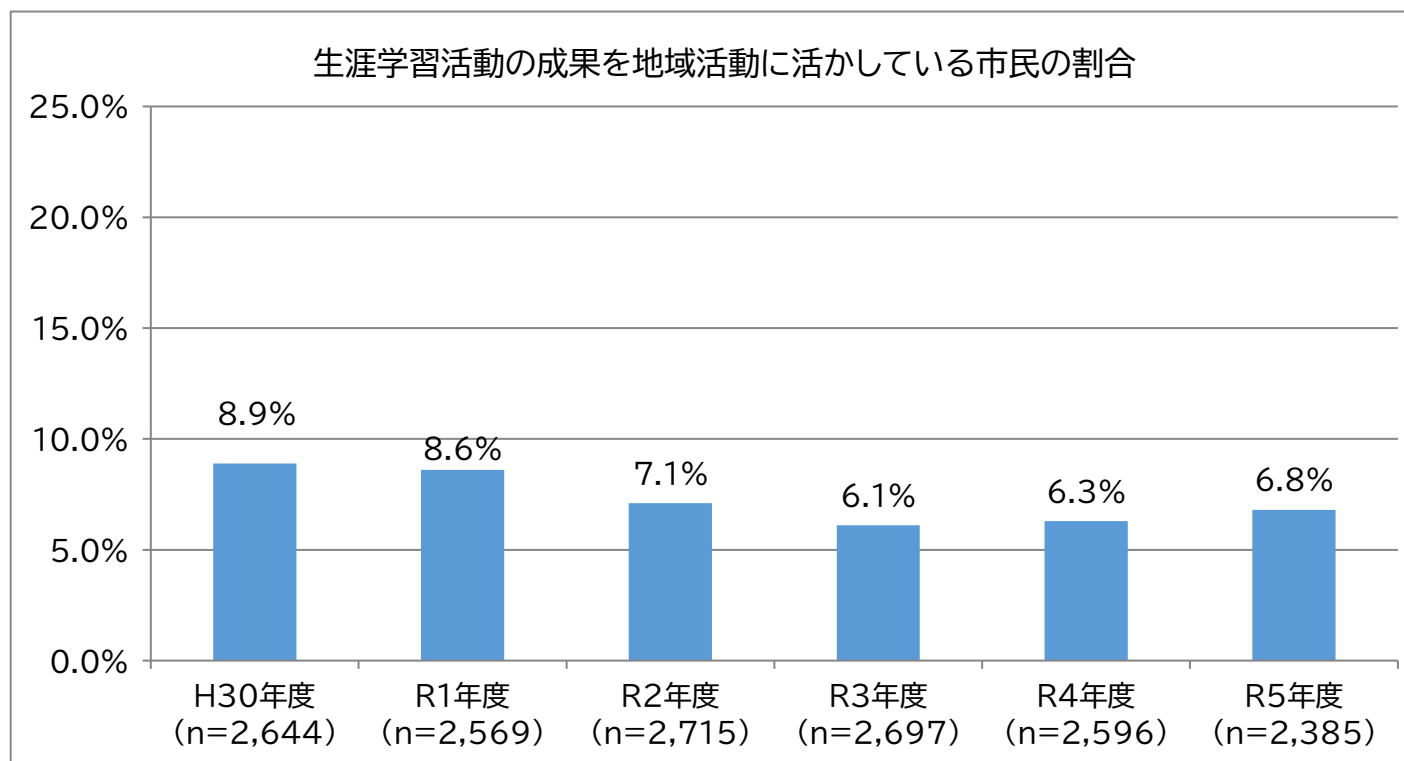
生涯学習活動をしている市民の割合をみると、平成 30 年度（2018 年度）から令和 4 年度（2022 年度）まで 55%前後で推移していましたが、令和 5 年度（2023 年度）は 69.8%と 15%近く増加しています。



<令和 5 年(2023 年)市政世論調査より>

◎生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合の推移

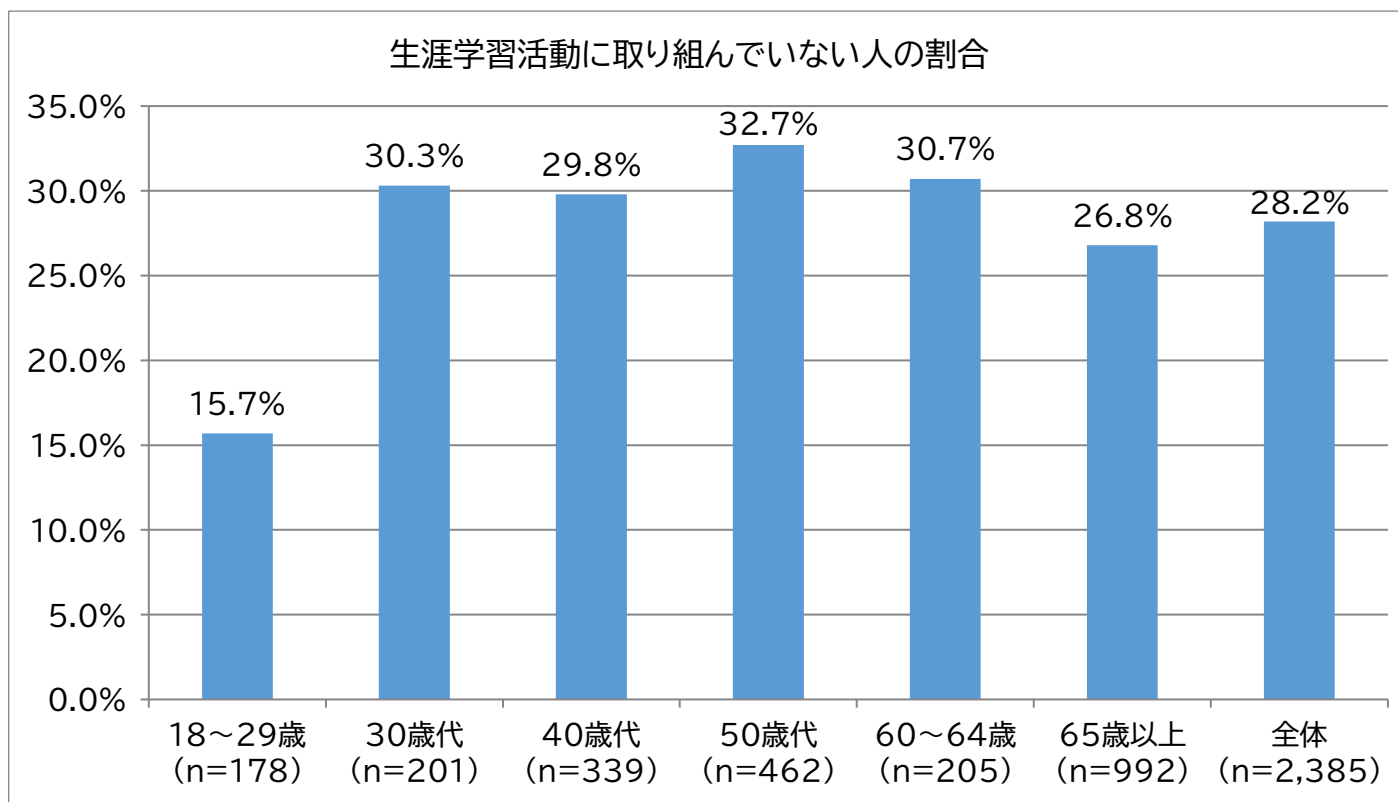
生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合は 10%未満の数値で推移しています。



<令和5年(2023年)市政世論調査より>

◎年齢別生涯学習活動に取り組んでいない人の割合

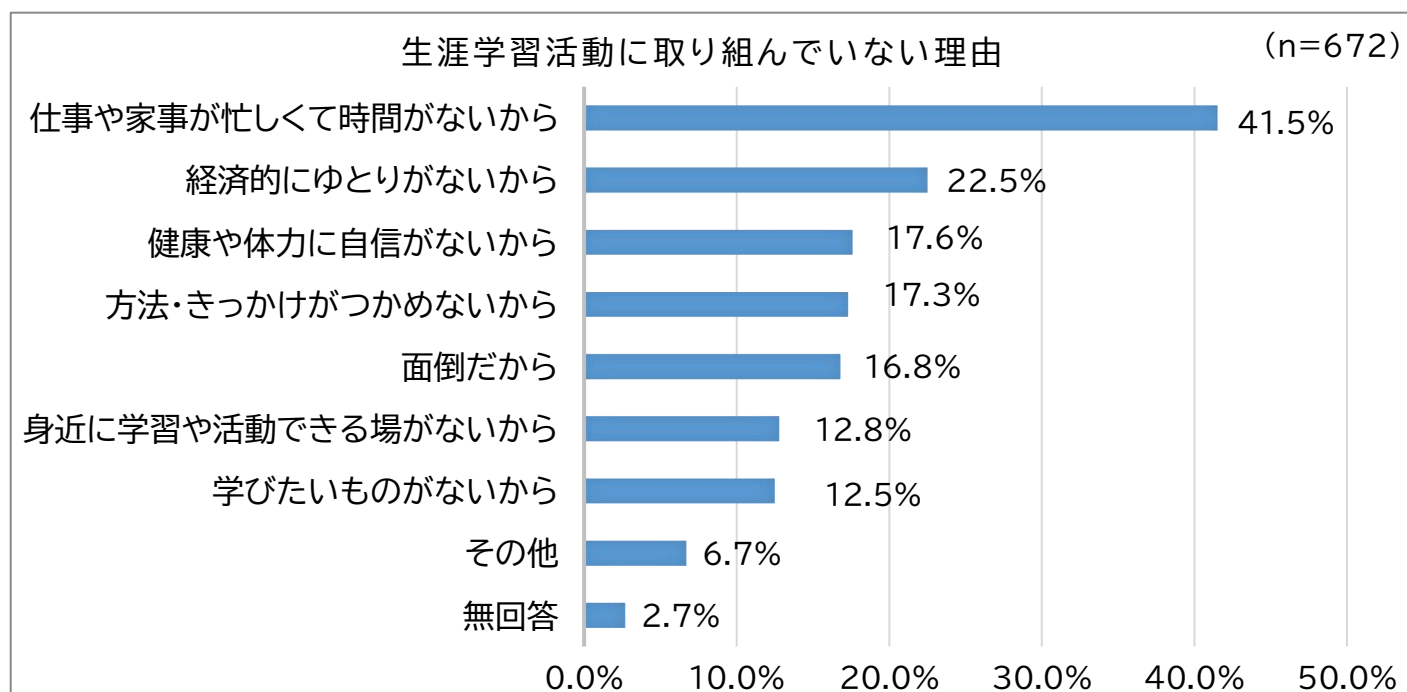
「学習活動に取り組んでいない」という回答を年齢別にみると、30歳から64歳までの年齢、いわゆる「現役世代」といわれる年代で多くなっています。



< 令和5年(2023年)市政世論調査より >

◎生涯学習活動に取り組んでいない理由

令和5年（2023年）の調査では、「この1年間に生涯学習活動に取り組んでいない」と回答した市民に、その理由を聞いたところ、「仕事や家事などが忙しくて時間がないから」（41.5%）が最も多くなっています。2位以下は「経済的にゆとりがないから」（22.5%）、「健康や体力に自信がないから」（17.6%）の順となっています。



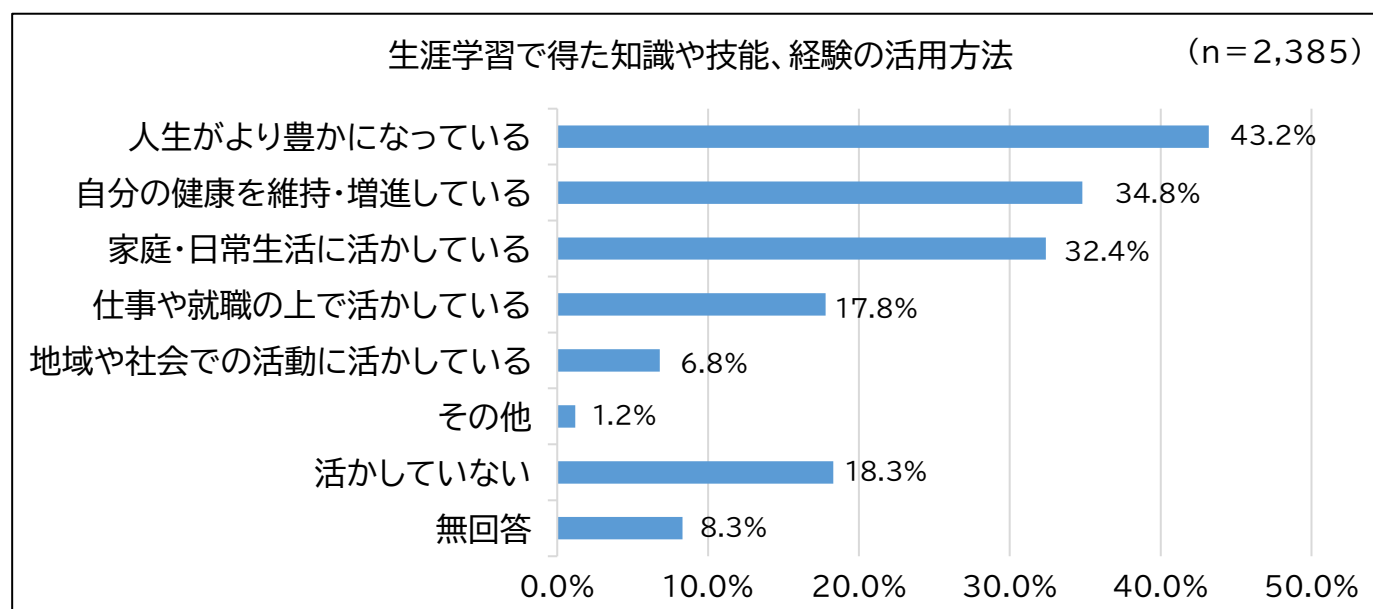
<令和5年(2023年)市政世論調査より>

◎生涯学習で得た知識や技能、経験の活用方法

生涯学習で得た知識や技能、経験をどのように活かしているかという設問では「自分の人生がより豊かになっている」(43.2%)が最も多くなっています。2位以下は、「自分の健康を維持・増進している」(34.8%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(32.4%)、「仕事や就職のうえで活かしている」(17.8%)などの順となっています。

年齢別にみると、「自分の人生がより豊かになっている」は18～29歳(57.3%)で最も多く、「自分の健康を維持・増進している」は65歳以上(45.1%)で最も多くなっています。「仕事や就職のうえで活かしている」は、18～29歳(39.9%)が最も多くなっています。

また、学習、スポーツ・レクリエーション活動、文化芸術活動などの指導や、町会・自治会活動、PTA活動、ボランティア活動など「地域や社会での活動」に活かしている市民の割合は、6.8%でした。



<令和5年(2023年)市政世論調査より>

(5) 現状と課題

◎生涯学習プラン（令和２年度～令和６年度）の基本施策ごとの指標の進捗状況

生涯学習プラン（令和２年度～令和６年度）では、策定時点（令和２年３月）での基本構想・基本計画である「八王子ビジョン 2022」に掲げられた都市像の実現に向け、基本施策ごとに指標を設定しました。目標と進捗状況は、次表のとおりです。

基本施策	基本施策に対する指標	目標	令和２年度 (2020年度)	令和３年度 (2021年度)	令和４年度 (2022年度)	令和５年度 (2023年度)
①誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～	生涯学習活動をしている市民の割合	毎年度、 前年度を上回る	56.9%	55.7%	55.1%	69.8%
②学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～	生涯学習活動の成果を 地域活動に活かしている 市民の割合	毎年度、 前年度を上回る	7.1%	6.1%	6.3%	6.8%
③学びを支える基盤づくり	SNS を活用した講座・ イベント情報を発信 し、フェイスブック等 の閲覧数	毎年度、 前年度を上回る	537,056 件	527,655 件	379,636 件	510,647 件

◎「八王子未来デザイン 2040」重要業績評価指標（KPI）*に対する現状値

「八王子未来デザイン 2040」では「みんなで目指す 2040 年の姿」を実現するため、重点的に取り組む内容として「重点テーマ・取組方針」を定めています。取組方針に基づく生涯学習関連施策における主な重要業績評価指標（KPI）*として、「生涯学習活動をしている市民の割合」と「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」を設定しており、目標値とその達成状況は、次表のとおりです。

重要業績評価指標（KPI）*	目標値 令和 12 年度（2030 年度）	令和 5 年度（2023 年度）
生涯学習活動をしている市民の割合	80%	69.8%
生涯学習活動の成果を 地域活動に活かしている市民の割合（※）	40%	6.8%

※調査対象には生涯学習活動をしていない市民も含まれる

◎現状値から見える課題

特に「生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合」が低調であり、目標値との乖離が大きくなっています。コロナ禍を契機に地域のつながりがより希薄になっていることも影響していると考えられます。市民一人ひとりが、日頃から地域とのつながりを持つことは日常における支え合いや共助の基盤ともなり、地域づくりにおいて重要です。様々な立場や年代の人がつながりを持つことによって新たな知識や価値観を得ることで学びへとつながります。そのような交流の場の創出や市民が地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要です。

◎八王子市生涯学習審議会から示された課題

八王子市生涯学習審議会答申「八王子市の生涯学習振興の基本方策について（令和６年（２０２４年）５月１３日）」では、主に次のような課題が示されました。

基本施策（生涯学習プラン （令和２年度～令和６年度））	問題点	主な課題
① 誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～	・ ライフスタイルの多様化や市域の広さによって、学習できる場所や時間に制約がある。	・ デジタル技術を活用した学びを発展させる必要がある。
② 学ぶから広がる地域づくり ～いかす・つながる～	・ 地域や世代間の交流が少なく、地域のつながりが希薄になっている。 ・ 核家族化、高齢化などにより地域の担い手が不足している。	・ 学びを共有し、地域活動に活かせる仕組みづくりが必要である。
③ 学びを支える基盤づくり	・ デジタルリテラシーによる情報格差により情報を十分に得られない人がいる。	・ デジタル技術を活用した学びを発展させながら、多様なニーズに応じた適切な情報発信をする必要がある。